

令和4年度
文教経済常任委員会行政視察
実施報告書

令和4年5月10日（火）～11日（水）

● 山口県周南市

- ① 道の駅「ソレーネ周南」の運営について
- ② 徳山駅前図書館について

山口県周南市

「周南市」は、山口県の東南部に位置し、徳山市、新南陽市、熊毛町、鹿野町、2市2町の合併により平成15年4月21日に誕生した。北に中国山地を背に、南に瀬戸内海を望む広い地域を指している、沿岸線に沿って大規模工業が立地し、温暖な気候と山海の幸に恵まれた豊かなイメージを彷彿させている。



◆ 道の駅「ソレーネ周南」の運営について



※「ソレーネ」は公募で決定。山口弁で「そうだね」の意味

1. 概要について



道の駅「ソレーネ周南」は、国道2号沿いに立地しており、周南市の西の玄関口として、道路利用者が快適に休憩できる場所を提供するとともに、道路情報、観光情報、周南ブランドを市内外、そして全国に発信し、周南市のアピールはもとより、農林水産業の振興や地域の活性化につなげることを目的としている。

総事業費は、約19億円（国：6億円 / 市：13億円）であり、駐車場と駐車場のトイレは、国が整備し、建物は市が整備し、国土交通省山口河川国道事務所と周南市が一体となって整備した道の駅である。市の道の駅事業債としては「合併特例債」を

利用した。

平成 26 年 4 月 1 日に国土交通省が整備した駐車場とトイレが利用開始、平成 26 年 5 月 17 日に地域振興を含む「道の駅」としてオープンした。面積は、22,900㎡（国：12,900㎡ / 市：10,000㎡）であり、駐車場は県内 1 位の広さとなっている。



挨拶をする篠田委員長

2. 進化する道の駅

□店舗構成とレイアウト



店舗構成としては、ソフトクリームなどを販売する軽食コーナー、情報発信コーナーでは、道路交通状況、気象情報、災害情報などをモニターで表示、さらに、高齢者相談コーナーを設けており、社会福祉協議会の看護師が常駐し、高

齢者の介護・福祉・医療などの相談に応じ、必要に応じて介護申請の代行も行っている。この他、授乳施設も備えている。物品販売施設では、農林水産物、特産品、土産品、コンビニがあり、すべて 24 時間営業とな



物品販売を見学する委員



土嚢倉庫

っている。製造販売コーナーでは、お弁当、総菜を販売。食堂は地産地消レストランとなっており、指定管理者である一般社団法人「周南ツーリズム協議会」の直営店舗となっている。この他、防災機能として、



井戸

で、土嚢倉庫、井戸、かまど式ベンチ、EV 充電器も備えている。

3. これから求められる「ソレーネ周南」の運営について



コンセプトに「生きがい支援」を掲げ、他に類を見ない地域福祉重視型の道の駅と
 している。まず、中山間地域の高齢者による農作物の委託販売であり、一般的には農
 協などを通じて農作物を仕入れることがあるが、ここではそれを高齢者が担っている。
 周南市は約 70%を中山間地域で占めていて、高齢者が積極的に農作物を生産し、そ
 れを道の駅で販売するために、ソレーネの職員が生産者宅まで集荷する仕組みと
 地域を集配送でまわってい
 るヤマト運輸で集荷する仕
 組みづくりを構築し、「高齢
 化地域支援」+「雇用の創出」
 としている。値段付けや在庫
 管理を ICT の導入で効率化
 し、「自分で作って売って喜
 ばれる」生きがいを生み出し
 ている。

□道の駅ソレーネ周南売上・客数の動向

	年間売上	1日売上	年間客数	1日客数
初年度目標 (H26)	4.2億円	115万円	50万人	1.4千人
H30	7.4億円	202万円	85万人	2.3千人
H31	7.3億円	200万円	81万人	2.2千人
R2	6.4億円	175万円	66万人	1.8千人
R3	6.7億円	185万円	69万人	1.9千人

令和2年度と令和3年度は、
 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた

4. 重点「道の駅」と防災「道の駅」について



ソレーネ周南バス停

国土交通省が平成 26 年度から地方創成の核となる特に優れた取り組みを選定し、重点的に応援するという取り組みを実施した。その中で、地産地消の促進や小さな拠点の形



成等を目指した企画提案が募集され、ソレーネ周南の企画提案としては、1，中山間地域の集荷支援システムをさらに推し進めた小さな拠点、ミニコミュニティの形成、2，福祉道の駅として、医療や健康、介護等の相談を受ける高齢者相談窓口を設置。3，周南市の地産地消商品として水素を活用した水素ステーションの誘致の検討¹。これらの取り組みが評価され、道の駅周南が重点「道の駅」として選定された。平成 29 年 4 月には、ソレーネ周南バス停共用開始した。さらに、国土交通省の事業ではあるが、高速道路外の休憩施設等への一時退出を可能とする実験を開始した。この取り組みにより、サービスエリアの混雑解消や道の駅の利用促進につなげていく。

令和 3 年 6 月に「防災道の駅」制度として、都道府県の地域防災計画等で、広域的な防災拠点に位置付けられている道の駅について、「防災道の駅」として選定、防災拠点としての防災拠点の役割を果たすための重点的な支援を実施。現在は、BCP の策定を促進している。



「防災道の駅」の説明を受ける委員

¹ ④水素の実証事業については令和 3 年 12 月で終了している。

主な質疑

Q 運営主体は。

A 一般社団法人「周南ツーリズム協議会」である。

Q 土日と平日での売り上げは。

A 令和4年、土日祝で1日250万円、平日1日150万円。

Q 物品販売施設が24時間営業とのことで、物品の入れ替えをどのように決めているのか。

A 出荷は自由な時間、自分で並べ値札（価格）も自由設定。夜勤は2名常駐。

Q ヤマト運輸の集荷による安否確認で、ソレーネ内にある高齢者相談センターへ相談が入った例はあるのか。

A ヤマト運輸から相談に至った事例はこれまではない。

Q 高齢者相談センターの利用者は何件か。

A 月に40名～50名ほどであり、令和2年の相談実績件数で574名であった。

Q 場所について選定する際、国道に面していなければならないなどの、国からの条件等があったのか。また、この場所を市が選定した理由は。

A 国からは特に条件などはなかった。また、こちらの場所を市が選定した理由については、「道の駅」構想時点で周南市の西側に設置、さらに、ある程度の広さを確保でき、高速道路、2号線に近いなどの理由からである。



質疑応答



◆ 徳山駅前図書館について

1. 徳山駅前図書館のコンセプトと概要



賑わい交流施設外観

平成15年4月の2市2町の合併により「周南市」となったことを契機に、徳山駅周辺整備事業として「新たな徳山駅ビル整備基本構想」を策定し構想を進めた。徳山賑わい交流施設は、このまちへ来る人へ



挨拶をする周南市議会議員

の「おもてなしの場」、このまちに住んでいる人たちの「居場所」、人が集い楽しむこのまちの「賑わいと交流の場」をコンセプトにし、その中の核施設として、「徳山駅前図書館」は、新スタイルの図書館として開館した。

徳山駅前図書館は、ブック&カフェ機能を備え、民間活力導入図書館として、CCC（カルチャーコンビニエンスクラブ）の指定管理者で運営し、午前9時30分から午後10時まで年中無休で開館。

コンセプトは、単に静かに読書や勉強するだけではなく、カフェで本を読み、おしゃべりしながら読書ができるような・・・利用者には心地よい空間を創出している。



駅直結屋外デッキにて



1階レイアウト

『コミュニケーションを楽しむ
マイ・リビング』



カフェ
【スターバックスコーヒー】



書店（販売書法）



オープンカフェ「vec」



図書部

2階レイアウト

『暮らしと人の交わる “まち”の玄関』



読書体験型展示場
【ブック&アート】



読書場



カクテル＆学習コーナー



インフォメーション
スペース



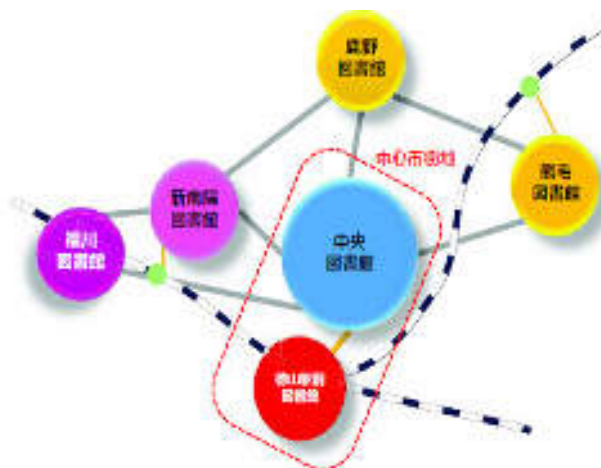
屋外テラス



現地視察する委員

2. 中央図書館をはじめ既存 5 館との連携

中央図書館を含む 5 館は全て市の直営で管理を行っている。現在は、徳山駅前図書館と約 700m しか離れていない至近距離にある中央図書館とのすみ分けを行っている。



中央図書館、新南図書館、福川図書館、熊毛図書館、鹿野図書館

の 5 館は、それぞれ地域の「知の拠点」として地域の読書活動・生涯学習活動の支援を行うとともに、「知の広場」としての徳山駅前図書館は、新たなスタイルの図書館として、「人が集い楽しむこのまちの賑わいと交流の場」の創出を図り、6 館相互でしっかりと連携を図り、利用者満足度の高い図書館サービスを提供することで、読書環境の整備、市民の文化水準の向上を図っている。

中央図書館→市の直営

- ◆ これからも大切な⇔「**知の拠点**」過去に学び、深く詳しく「知」を深める図書館
- ・月曜日、月末は整理日、年末年始などは休館
- ・蔵書は全ジャンル
- ・郷土資料などを収集・保存し、充実している

徳山駅前図書館→指定管理者による運営

- ◆ 新スタイルの図書館⇔「**知の広場**」今を知り、広く「知」を楽しむ図書館
- ・年中無休、夜遅くまで開館（9：30～22：00）
- ・ライフスタイルジャンル中心の蔵書
- ・お茶を飲みながら本を読め、おしゃべりもOK



現地視察する委員

3. 教育大綱に基づく対象施策と重点事業²

いきいきと学び続ける生涯学習社会の実現。

読書が育むひとづくり・まちづくり。

事業名 図書館資料購入費 《継続》 決算額(前年度):34,513,302(34,624,787)円

事業内容 生涯学習時代の多くの利用者の期待に応えられるよう、新鮮で広範囲にわたる図書館資料の収集、充実に努めました。

事務事業評価 B

事業名 図書館管理運営費 《継続》 決算額(前年度):173,740,878(164,926,318)円

事業内容 図書館サービスの向上と読書活動の推進を図るために、市内6館の連携を深め、円滑な図書館運営と利用しやすい図書館づくりに努めました。また、家庭での「うちどく」の奨励や学校図書館との連携の強化を図るとともに、「第三次周南市子供読書活動推進計画」の推進を図りました。

事務事業評価 B

事業名 図書館システム運営費《継続》 決算額(前年度):39,098,088(37,985,899)円

事業内容 図書館システムの更新を行うとともに、多様化する利用者の要望に対応するため、資料の情報を正確に提供し、業務の効率化、資料の適正管理に努めました。

事務事業評価 A



説明を受ける委員



現地視察する生涯学習部長

² 令和3年度（令和2年度対象）教育委員会点検・評価報告書

主な質疑

- Q CCCが指定管理者であり蔦屋書店の事業も手掛けているが、新書購入の選定CCCの意向に左右され、他の5図書館との間に差が出ないのか。



質問する生涯学習部長

- A 各館独自で購入している。駅前図書館に関しては、一度、CCCがリストを作り、それぞれの市の図書館長などが会議を行っているが、最終的にはCCCが購入している。

- Q 蔦屋書店の売り場と図書館が同じフロアによる利用者への影響は。

- A 見た目、図書館と書店の違いが分かるように、本の仕切り版を図書館は「黒」書店は「白」として区別できるようにしている。またフロアにはサインで標記している。最新の雑誌を購入しなくても「ブック&カフェ」というコーヒーを飲みながら読めるようになっていること、さらに手元に置きたい本を購入可能なことについて、利用者から支持されている。

- Q 元々あった中央図書館の利用人数への影響は。

- A 中央図書館の利用者は2割減となったが、全体の利用者数、貸出数は増えている。

- Q 指定管理者導入について、庁内外でどのような議論があったのか。

- A 様々な関係者と議論し、意見がある中で、当時の市長が佐賀県武雄市を参考に、カジュアルな図書館をつくりたいとの意向があったことから、最初から指定管理制度を活用した図書館として事業を進めていった。

